



書評

[評者]

中島 正光

広島国際大学薬学部教授・生薬
漢方診療学/和漢医薬学会理事長

漢方を交えた医療論

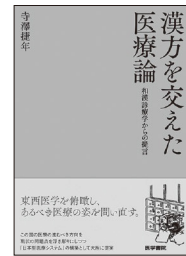
和漢診療学からの提言

寺澤 捷年 著

●A5 頁 240 2024 年 11 月

定価：5,500 円 (本体 5,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-05741-7] 医学書院刊



医学書院から出版された寺澤捷年先生の素晴らしい著書を拝読させていただきました。読みやすく、引き込まれる内容で、どんどんと先を読みたくなる本です。本書を読んでいただければ、日本の未来の医療は漢方を交えることによって、さらに素晴らしい、より世界に誇れる医療となることがわかります。いかにして貴重な日本の文化遺産である漢方を守り、活用させ、発展させることが重要であるかが読み解けるようになっています。

具体的な内容を記載すると、漢方と医療・科学・診断法・死生観・教育、医師の生の声、現状と将来展望、世界に誇れる日本型医療システムの提案など漢方の優れた特性と現状の問題点がさまざまな手法で説明されています。寺澤先生は、世界に類を見ない漢方を交えた新しい日本の医療が頭のなかで見えているのだとわかります。このように、日本の医療が漢方を交えることに

よって新しい日本型医療システムへと変わる道筋を示している書物を私はまだ見たことがありません。

魅力を高めている本書の内容を少しご紹介します。例えば、寺澤先生の貴重な経験を吸収できるコラムや症例、加えて 15 人の執筆協力者の記載内容は本書を理解するのに良い助けとなっています。漢方を始めようとする先生には「漢方とはどのようなものか」、漢方のベテランの先生には「今後どのように漢方を活用、発展させるべきか」、そして医学界のリーダーの先生には「漢方を交えた医療による日本型医療システムの提案」を理解していただけたと思います。大変、役に立つ、実に素晴らしい書物と感じました。

ぜひ、皆さんに読んでいただき、感動していただくとともに実践に役立てていただきたい作品です。